

プログラム初日 6月4日(土)

11:00 ~ 12:00 総会

12:00 ~ 13:00 受付

13:00 ~ 13:10 オープニング

13:10 ~ 14:10 基調講演 1 「ぬちどう たから」 ~ホームレス支援を通して見えたこと~

奥田 知志 氏 (NPO 法人抱樸 理事長)

ホームレスの人たちの中には障害を持つ人が4割もいます。また、障害の有る無しに関わらず、生き難さを持った人たちも増えています。誰もが生き易い社会の在り方とは~。

14:15 ~ 15:15 基調講演 2 「ゆいまーる=ゴトンロヨン」 ~相互扶助に学ぶ~

中澤 健 氏 (アジア地域福祉と交流の会 代表)

ボルネオ島にあるマレーシア・サラワク州のイバン族の村に、障害児(者)のディ・センター「ムヒバ」を村人と日本のボランティアの協働で創りあげてきました。

その実践を通して人と人が助け合うこと、人の繋がりについて考えます。

<休憩 20分>

15:35 ~ 16:35 パネルディスカッション 「礎(いしじ)」
~戦後日本の福祉施策から遅れた沖縄~

沖縄は精神障害者施策が大幅に遅れ、本土復帰後から精神病棟が一気に増えました。また、地域によっては“座敷牢”に押し込められた時期もあり、戦後の沖縄県は精神障害者発症が全国一となっています。さまざまな困難を乗り越えてきた沖縄の先人たちは、本土復帰後の障害者福祉をどう切り開いてきたのか? それぞれの取り組みや思いを語ります。

パネラー 村田 涼子 氏 (若竹福社会 総合施設長)

島袋 紀男 氏 (いしなぐ福社会 施設長)

當山 富士子 氏(元 沖縄県立看護大学教授/NPO法人ふいーんど・ばわー 生活支援員)

コーディネーター 鈴木 良 氏 (琉球大学 准教授)

<休憩 5分>

16:40 ~ 17:40 シンポジウム 「なんくるないさ」
~それぞれの地域の特性を活かしたグループホームの創り方~

「なんくるないさ」=「挫けずに正しい道を歩むべく努力すれば、いつか良い日が来る」という意味。どうにかなるさではなく、努力の積み上げによって人が繋がり、道が拓けていくというものです。

シンポジスト 知念 隆生 氏 (海邦福社会 施設長)

迎里 崇雅 氏 (ヘルパーステーションコミット 代表取締役)

大兼久フサ子 氏 (NPO 法人 ぬぶいていーだ 所長)

コーディネーター 島村 聡 氏 (沖縄大学 准教授)

<パシフィックホテル沖縄へ移動 50分>

18:30 ~ 20:30

懇親会 「いちゃりばちよーでー」

唐ぬ世から大和ぬ世、アメリカ世からまた大和の世の歴史を歩んできた琉球国・沖縄。戦前、戦後を通して沖縄の人々は様々な歴史を通してチャンプルー（混ぜこぜ）である沖縄独自の文化を創りあげてきました。喜びも悲しみも、歌や三線という音楽芸能を通じ、自らの心を表現、解放してきたのです。この島の芸能を通して沖縄の肝心（チムグクル）に触れ「いちゃりばちよーでー」を感じていただければ幸いです。

(幕開け かぎやで風・余興⇒歌・三線・空手・最後はエイサーとカチャーシー)

プログラム2日目 6月5日(日)

Aプログラム ^{にゅうきよしゃ}入居者プログラム「グループホームでいきいきと」

Bプログラム 連続講座

A 8:45 ~ 9:00 受付
9:00 ~ 11:30 入居者プログラム

B 8:45 ~ 9:00 受付
9:00 ~ 10:30 連続講座

- ・「グループホームでいきいきと」
日本グループホーム学会 入居者委員
- ・「障害福祉施策をめぐる最近の動向とこれから」
日本グループホーム学会 代表 光増 昌久
- ・「スプリンクラー設置義務化に伴う問題について」
日本グループホーム学会 事務局長 室津 滋樹

10:30 ~ 11:30 まとめのディスカッション 「離島から見る日本の福祉」

いくつもの島々から成る沖縄。それはとりもなおさず日本国の縮図でもあります。離島であるがゆえの良さを活かした取り組みと厳しさについて、グループホーム運営をしている実践者の宮古島と石垣島からの報告と提言を通して考えます。

パネラー 下地 克子 氏 (宮古島：特定非営利活動法人マーズ 所長)
津嘉山 航 氏 (石垣島：株式会社ゆにばいしがき 代表取締役)
コーディネーター 鈴木 良 氏 (琉球大学 准教授)

<AとBの終了後 休憩 15分>

11:45 ~ 12:15 入居者プログラム講座の報告

12 : 15 ~ 12 : 35 次回開催地紹介 ・ 閉会の挨拶・その他（連絡事項等）